

1 主題名 命の大切さ D (19) 生命の尊さ

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 生命の大切さへの考えを深め、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てる。
- (2) 教材名 「稲むらの火」(教育出版 「小学道徳5 はばたこう明日へ」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容項目Dの「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の(19)「生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。」を深めることをねらいとしたものである。これは中学年の内容項目「生命の大切さを知り、生命あるものを大切にすること。」を受け、さらに中学校の内容項目D (19) へとつながっていくものである。5学年になると、「生命の尊さ」についての理解ができている児童がほとんどである。しかし、生死や生き方に関わる生命の尊さについて深く考えたことはあまりないと考え。そこで、「生命の尊さ」や命を守ろうとすることのすばらしさを感じ取らせ、「命」についての考えを深め、かけがえのない命を尊重しようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い (調査日 令和4年＊月＊日 調査人数 ＊人)

命とはどのようなものですか。(複数回答)					
・大切なもの	＊人	・1つしかない	＊人	・お金では買えないもの	＊人
人の命を守ったり、救ったりしたことのある人を知っていますか。(複数回答)					
・警察官	＊人	・消防士	＊人	・救急救命士	＊人
・医者	＊人	・看護師	＊人	・自衛隊	＊人
・薬剤師	＊人	・消防団	＊人	・肥沼信次	＊人
・知っている	＊人				
突然の地震など、自然災害が発生したとき、命を守るためにどうしたらよいでしょう。					
・安全な場所に避難する		・自分の命は自分で守る		・冷静に行動する	
・逃げる		・みんなで行動する		・親に連絡する	
・前もって決めておいた通りに行動する					

アンケートの結果から、命とは、「大切なもの」、「1つしかない」などの回答が比較的多いことが分かる。また、人の命を守ったり、救ったりした人は、「警察官」、「消防士」、「救急救命士」などの回答が多かった。このことから、命の大切さについて、自分なりに捉えて回答していることが分かる。また、家族や友人など身近に死を感じる場面も経験している児童が多い。しかし、「生命の尊さ」を意識して生活している児童は少なく、命を大切にすることはどういうことなのかを具体的にイメージしたり、捉えたりすることが難しいようである。そこで、本授業では、より自分のこととして「生命の大切さ」を感じ、自分の命とともに、他人の命を大切にしようとする気持ちを育てたい。

(3) 教材について

本教材は、津波から人々を守った五兵衛の行動をとおして「生命の尊さ」を感じさせる教材となっている。「生命の尊さ」という、ふだんの生活の中では意識しないとすることが難

しい内容項目について学習する。津波が起きたときの五兵衛の行動や教材から学ぶことを通して、生命の大切さへの考えを深め、かけがえのない命を尊重しようとする心情を育てたい。

(4) 指導観

導入では、事前にとったアンケートの結果を提示し、「命」についての捉えをクラスの中で共有する。また、授業のねらいを意識付ける。展開では、大切な稲むらに火をつけるという行動に至った五兵衛の考えをしっかりと捉えられるようにする。ここでは、五兵衛の行動だけでなく、稲むらの大切さや村人の気持ちなどもおさえていくことで、五兵衛の行った行動のすばらしさを実感できるようにする。また、展開後段から終末は、「展開後段と終末を描くシート」を活用して、児童が自分との関わりで考えるための発問と資料を作成しておく。作成した学習指導の工夫を用いた授業を行い、児童が自分の経験や地域の出来事を振り返ることで、「命」についての思いや願いをもてるようにする。このように、自分との関わりで考える学習を通して、かけがえのない命について考え、生命の大切さへの考えを深め、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てたい。

4 本時の指導

(1) 準備・資料

教科書、道徳ポートフォリオノート、活用シート

(2) 展開

	主な学習活動と発問	予想される児童の反応	指導の手立て、評価（評価方法）
導入	1 アンケートの結果を提示する。 ○ 「命」とはどのようなものですか？ ○ 人の命を守ったり救ったりした人を知っていますか？	・ 大切なもの ・ 1つしかないもの ・ 医師 ・ 看護師 ・ 消防士 ・ 警察官	・ 事前アンケート結果を提示し、「命」についての捉えを共有する。 ・ 授業のねらいを意識付ける。
展開	2 教材「稲むらの火」を読み、問題について考える。 ○ 「津波が来るとわかった時、五兵衛はどのようなことを考えたでしょう。」 ◎ 「五兵衛はどのようなことを考えながら、高台に上がってくる村人の数を数えたのでしょうか。」 3 自分だったらどのように行動するか、考える。 ○ 「自分の大切なものを犠牲にしても、人の命を救えますか。」	・ 大変だ！村人を守らなければ。 ・ みんなに伝えよう！ ・ 稲むらに火をつけるしかない！ ・ みんな気付いてくれ！ ・ 早く上がってこないと間に合わない。 ・ 助かってほしい。 ・ こんなにすぐには決断できない。 ・ こういう経験はないけれど、五兵衛と同じようにする。	・ 教科書の脚注と図を参考にして「稲むら」とは何かについておさえ、五兵衛にとって大切なものであることに気付かせる。 ・ 発問を提示し、考える内容を明確にする。 ・ 大切な稲むらに火をつけた行動をするに至った五兵衛の考えをしっかりと捉えさせる。 ・ 稲むらの大切さを理解した上で、高台に上がってくる村人の数を数えている五兵衛の気持ちを考えられるようにする。 ・ 自分の大切な稲を失ってまでして、人の命を助けることができるのか問いかける。

	○ 「もし、**川が氾濫したら、命を守るために何ができますか。」	・自分だけでなく、近所の人にも声をかける。 ・逃げ遅れている人がいるかもしれないから、みんなを確認する。	・「五兵衛の立場だったら」だけでなく、村人など様々な視点から考えられるように、友達との意見交換や話し合いを取り入れる。 ・自分が五兵衛のような場面に遭遇したらどんな対応ができるかを考え、自分との関わりで考えを深められるようにする。 ・**川の水害の資料を提示する。 ・家や近所にはどんな人が住んでいるかなど、より身近な場面を想起させ、自分事として捉えさせる。 ・思い付かない児童には、友達の意見を用いて「〇〇さんもそうする？」などと問いかける。 ・考えを深めさせたい児童には「なぜ？」「具体的に言う」と？」などの問い返しをする。
終末	4 今までの自分の経験を振り返り、自分の考えをまとめる。 ○ 「命の大切さについて、自分の考えをまとめましょう。」	・自分の命と同じように、他の人の命も守れるようになりたい。 ・突然何かが起きても、一番大切なものは命ということを忘れずに行動したい。 ・自分の命だけでなく、大切な人の命を自分が救えることもあるのだと気付いた。 ・自分の大切なものを犠牲にしても、他人の命を救う人がいることを知って、自分の家族も水害の時に自衛隊に助けられたと聞いたことを思い出した。人の命はかけがえないもので、それを守るために、行動できる人になりたいと思う。	・本時で学んだことをヒントにして、自分の考えを深められるようにする。 命の大切さへの理解を深め、自分との関わりで考えている。 (発言・道徳ポートフォリオノート) ・アンケートの「災害が起こったらどうしますか」の考えと比較して、「命」についての考え方がどう変容したのかを実感できるようにする。